

B—56 Time Study による被服工作分析

— 婦人スーツについて —

奈良女子大 ○水梨サワ子
旭化成KK 加藤 道子
川島織物KK 勝見 和子

1. 既製服縫製業界では経営の合理化のため Time Study が活用されている。私達は婦人スーツについて先輩の 2, 3 の研究に引きつづき被服工作を Time Study により既製服と関連づけて数量的に分析検討しその能率向上に資したいと思った。

2. 婦人スーツ既製服1種、私達の手によるもの5種をとりあげ、縫製作業をアイロン・ミシン・手縫・下手間・布切り・水つけ・糊つけ・印入れ・待針・糸ぬき・糸通し・糸切りの12要素に分析し材料の変化時間と作業要素の発生回数を観測し要素別部位別に整理検討した。

3. ①婦人スーツでは作業条件、作業方法、設備条件が一定であればデザインが異なっても全体の作業要素のしめる割合はほぼ同一傾向を示す。②個々の作業要素についてはいずれも「手縫」が首位をしめ「待針」は私達の被服工作では大きな割合をもち被服工作の特徴と思われる。③作業方法の相違は作業時間、作業要素の発生回数および割合に最も大きな影響を及ぼすと考えられる。